

P T Aだより

いい顔をして、いい旅をしたという清々しい印象を残すこと

校長 竹村 和之

寄稿に際し、昨年度のP T Aだよりに目を通してみました。どうやら、卒業する3年生に送るたくさんのメッセージや「修学旅行」の思い出が、この紙面を飾ることになるのでしょうか。欲張りな私は、卒業と修学旅行という学校でも大きな二つの行事について、この限られた紙面で書くことにしました。

修学旅行のしおりの目的というページに次のような一文がありました。

「修学旅行は、誰もが行って「楽しかった」としみじみ感じられるもの、誰の胸にもいつまでも温かな思い出として刻まれるものでなければなりません。……（中略）……

あなたたちを送り出してくださる保護者の方々、この修学旅行に関わる全ての人たちに、感謝の気持ちを忘れずに。そして、その人たちにあなたたちがいい顔をして、いい旅をしたという清々しい印象を残すこと。さらに、この旅を通じていろいろな人とのつながりをあなたたちが幸せに思うこと。それが、この修学旅行の目的です。」

2年生は、溢れんばかりの笑顔で、旅から戻ってきました。

では、次に、上の文の「修学旅行」を「高校生活」と読み替えて、もう一度読んでみてください。

学校で行う授業や行事には、それぞれ目的があり、生徒自身の望みもいろいろで、保護者の皆さんのお子様への願いも様々なのでしょうか、私たちが子供たちに望んでいるのは、つまりは、こういうことなのではないでしょうか。

本日、学舎を巣立つ北高生も、きっと、いい笑顔で、清々しい印象を残して旅立ち、そして、その時と変わらぬ笑顔でふるさとに戻ってきてくれると信じています。